防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報　第 37 号(2010 03 31)
事務局川西地区自主防災会

1 年間の防災教育を振り返って

丸亀市立城辰小学校　教頭　小川忠司

１．はじめに

昨年 4 月に，防災教育に熱心に取り組んでいる本校に赴任した。最初は何も分からなかったが，各種の防災訓練や会合に参加するうちにおぼろげながら防災というものが分かりかけてきたし，学校教育という視点からも，ほんの僅かながら防災を考えることもできるようになってきた。1 年間防災教育に携わって感じたことや考えたことについて述べてみたい。

２．繰り返し行うことの重要性

防災教育は，繰り返し行うほど，子どもたちの防災に関する意識が高まるということを実感した。本校では，5 年生の 2 月に第 1 回目の防災訓練を行い，6 年生になってから 5 回，計 6 回の防災に関する研修を行っている。児童の感想や研修への取り組み方を見てみると，最初は「炊き出しのカレーがおいしかった」「土のうが重かった」というような感想が多かったのが，何度も研修に参加した後は，「自分たちでも人の役に立てることが分かった」「協力することが大切」「失われていく人の命を救うためにもっと訓練に参加したい」など，防災に関する関心の高まりや活動への真剣さがみられるようになってきた。1 回きりの防災教育ではなく，何度も行うことの重要性と必要性を強く感じた。

３．地域との連携の重要性

本校では，川西自主防災組織の全面的な協力のもと，年 6 回程度の防災訓練を行っている。いまさら述べるまでもないが，地域と学校が連携して防災訓練を行うことは大変重要である。では，どういった点で重要と考えるのか，その連携の効果を整理してみると，下の 4 点が挙げられる。

防災マップづくりを例にとると，「昔は，この辺り一帯が水につかった。」「増水した川に流されおじさんの同級生が亡くなった。」「水路から水があふれた時，この道は通れないが，この畦道は通れる。」など地域の方と一緒に探検することで，『過去の災害の記憶』と『災害に対する智恵や技術』が伝承されていく。さらに，同じ地域に住む大人と子どもが通学路探検を通じて顔なじみになることで，いざ災害が起きた時の救助や援助がスムーズになるとともに，子どもたちの中に，川西町を守ってくれている大人がいる安心感や川西町の一員であるという自覚が芽生えてくる。

⑴　災害に対する知識・技術の伝達
- 学校では教えられない知識・技術
- 専門的な知識・技術

⑵　校区で起きた過去の災害の伝承
- どこが危ないか，どのような被害がでるか
- 災害に対する昔の人の知恵の伝承

⑶　校区の人との交流
- 大人も子どもも，誰がどこの人か分かる

⑷　自覚の芽生え
- 自分たちの町を守る一員という自覚の涵養

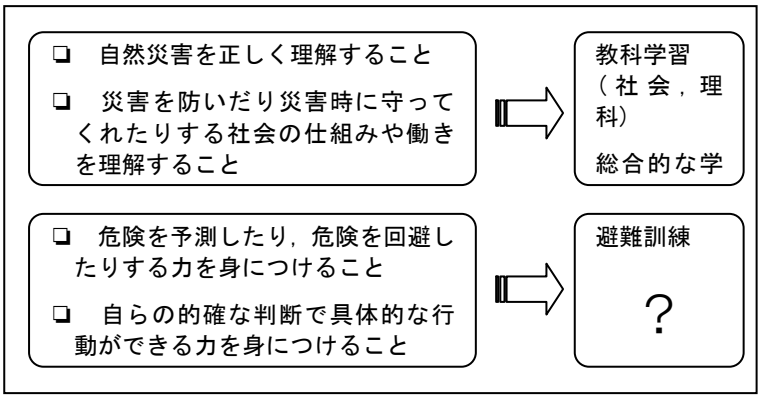
【地域と連携することにより得られる効果】

地域との連携は，その効果という点からも，また学校での防災教育を効果的に進めるという点からも，切り離して考えることのできない重要な要素を占めるものであると考える。

４．学校で防災教育を進めるうえでの課題

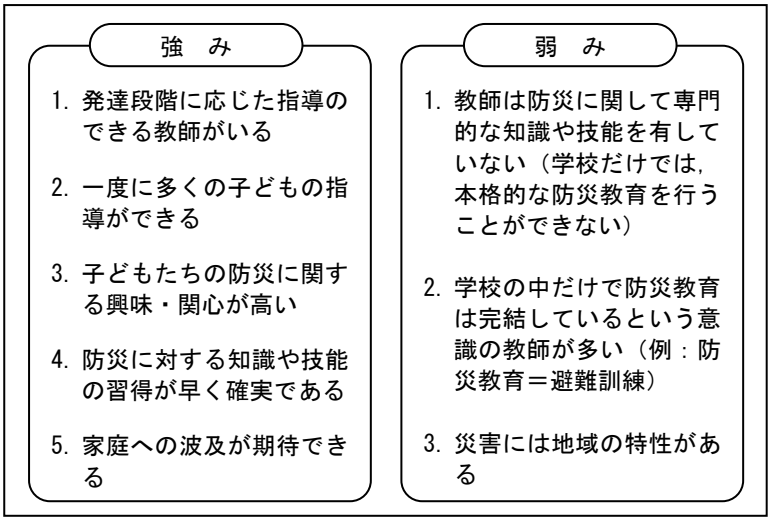
学校における防災教育には 2 つの側面があるのではないかと，1 年間の活動を通して感じた。1 つは災害や防災に対する「理解」であり，もう１つは「能力・態度の育成」である。

図１に示すように,「理解」に関しては社会（4 年）や理科（5 年，6 年），または総合的な学習の時間の中で行うようになっているが,「能力・態度の育成」に関しては避難訓練ぐらいしか具体的なものが見当たらない。実践的な能力や態度を育成するためのカリキュラムが十分整備されていないというところに,まず一つ,学校で防災教育を進めるうえでの課題がある。



【図 1　学校における防災教育の 2 つの側面】

一方，学校で防災教育を進める上での強みと弱みを列挙したのが図２である。弱みのところに教師は防災の意識や知識・技能が低いように示しているが，誤解のないように丁寧な説明をすれば，教師は防災のことについて学んでいないためにほとんど防災のことを知らないのである。かくいう私も本校に赴任するまでは，防災のことはほとんど知らなかったのである。知らないのだから，意識や知識・技能が低いのはむべなるかな。



【図 2　防災教育を行う上での学校の強みと弱み】

教師が防災のことについて十分知らないというところに，2 つ目の課題がある。

５．子どもたちの変容

２の項で述べたように，子どもたちは回を重ねるごとに防災に関する知識や視点が広がり逞しくなっている。下に示す子どもたちの感想から，子どもたちの成長の様子や変容を感じ取ってもらいたい。

- 今日の訓練で人の命を助けることができると知り頑張りました。これから先，何が起こるか分かりません。今日習ったことを思い出し，焦らず行動したいです。
- 今までは自分たちにできることはないんじゃないかと思っていました。でも少しは他の人にも役に立つんじゃないかなあと思いました。だから，自分たちにできることは，これからもやっていきたいと思いました。
- 初めてしてみて，今まで知らなかった訓練の大切さを学びました。訓練では，必ずみんなと協力しないとできないということ。思っていたより訓練は大切だなと思いました。
- 地震の時に，どこにどのように逃げればよいか分かってよかった。でも，地震などはいつどこで

起こるか分からないものなので，いつでも，逃げられるよう，常に気をつかっておくことが大事だと思った。
- 一人だけ助かろうとせずに，みんなで頑張って救出活動を心がけたらいいと思う。
- 人の役立つ人間になりたいです。消防の人が，30 年後には地震があると言っていたから，人に役立つようになりたいです。
- 自分のことだけを考えずに，他の人のことも大切に思わなきゃな～と思います。
- 人を守るために，まずどうやったらいいのか考えることが大切だと思います。
- 私は，これからこういう訓練をしたいです。一つ一つの失われていく命が，ここで私たちが学んだことによって助かるからです。これからも，こういう機会を増やしてください。お願いします。
- 真剣にやって，人のためにやってみようと思いました。
- もっと防災訓練をして，人の助け方や自分の身の守り方を勉強してみたい。
- 地震などはいつ起こるか分からないので，もし起こった時は，子ども・大人関係なく，苦しんでいる人がいたら，この訓練を生かして，どんな人にでも救助できるようにしたいです。とてもいい体験になったので，この大切さを忘れないようにしたいです。
- もし，大きな災害が起きたらいけないので，今日教えてもらったことを家の人にも教えてあげて，訓練を家でもしてみたいと思いました。

【写真 1　土のう作り訓練】

【写真 2　避難所設営訓練】

【写真 3　通学路探検】

６．おわりに（防災教育の必要性）

タイのバンコク日本人学校に赴任した時，最初のオリエンテーションの冒頭の挨拶で，事務局長から「みなさんは子どもたちの教育に燃えて来られていると思いますが，そんなことはどうでもいいです。まず子どもたちの命を守ってください。それが一番の仕事です。勉強はその次です。」と言われた言葉が今でも鮮烈に残っている。まさに目から鱗だった。帰国後，大阪の附属池田小学校で起こった事件を見て，学校では，子どもたちの命を守ることが何よりも優先するという思いを一層強くもった。そう考えると，防災教育にもっと力を入れて行わなければならないのではないかと，１年間防災教育に携わった今、その必要性を強く感じている。

６年の理科で地震の勉強をした時，地球上で起こる地震の１／１０は日本で起こっているということを話すと，子どもたちは一様に「どうして」と尋ね，次に「もし起こったらどうしたらいいの」と質問してくる。しかし，その具体的な行動について教え指導するカリキュラムもシステムもそして指導者も，残念ながら今の学校は持っていない。

今学校現場には，「〇〇教育」「△△教育」等，教育という文字を従えていろいろなものが押し寄せてきている。どれも現代社会の課題に対応したことであるが，国語・算数・理科・社会等の教科指導の時間を圧迫しているのも事実である。そのうえ「防災教育」も実施するとなると，現場の先生方が積極的でなかったり，時に拒否反応を示したりするのも分からなくもない。

しかし，防災教育は命を守る教育である。命を守るための教育なら何よりも優先されてしかるべきではないだろうか。防災教育を行うための整備を進め，学校と地域・専門機関が連携した防災教育が，あまねく行われることを願っている。

かがわ自主ぼう　さらなる発展を

元香川県防災局長　　川部英則

『かがわ自主ぼう連絡協議会』の皆さん　結成３周年　誠におめでとうございます。
この４月の人事異動により、健康福祉部に異動しました。防災局在任中の３年間、皆様方には大変お世話になり、ありがとうございました。
私が防災局に配属になったのは、ちょうど『かがわ自主ぼう』が産声をあげた平成 19 年。私も『かがわ自主ぼう』に刺激を受け続けた３年間でした。
この間､他県から｢県がどのように主導して､『かがわ自主ぼう』結成につなげたのですか？｣とか､｢県の中に事務局があるんじゃないのですか？｣といった問い合わせがたくさんありました。｢香川県は全く関与していません。100％自主結成です｣。他県の皆さんからは、未だに信用されていないのではと思っています。それくらい『かがわ自主ぼう』の自主的な取組みが素晴らしいことだと。私自身、日本一の取組みだと確信しています。
さて、４ 月からは健康福祉部勤務となります。この部署は、医療や介護、障害福祉など福祉全般という窓口の広いところです。また､『要介護』､『ＤＭＡＴ』､『救急医療』など、防災行政とも密接な部署ですので、今後とも引き続き、よろしくお願いします。
３年間本当にお世話になり、ありがとうございました。
『かがわ自主ぼう連絡協議会』と皆様方の今後益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

離任のご挨拶

元香川県防災局次長 田村寛司

2年間でしたが大変お世話になりました。
平成19年に川西地区の呼びかけで「かがわ自主防連絡協議会」が設立され、各地域が連携し様々な訓練や勉強会など自助･共助の輪が着実に広がってきていることは､地域防災力の強化だけでなく地域間の連携を深める上でも大きな役目を果たしていると考えています。
平成16年の大災害以来、大きな災害もなく防災への意識が希薄になりやすい状況の中、今後とも地域・行政がお互いに協力してモチベーションを維持していくことが必要であると思います。
このたび、防災局を去ることになりましたが、皆様のこれまでのご尽力と県の防災行政へのご協力に感謝申し上げますとともに､協議会の今後益々のご発展をお祈りいたします。
たいへんありがとうございました。